

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070801867		
法人名	有限会社 あざみ		
事業所名	グループホーム あざみ苑		
所在地	〒813-0036 福岡県福岡市東区若宮4丁目2番48号	TEL	092-663-8119
自己評価作成日	令和06年04月25日	評価結果確定日	令和06年06月07日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

以前の様に地域交流が出来ない中でも利用者様が生き生きと生活できる様、全職員で試行錯誤しながら支援している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「あざみ苑」は、利用者が住み慣れた地域の中で安心して暮らしと心のケアが受けられる事業所として19年前に開設した定員18名のグループホームである。新型コロナ5類移行に伴い、保育園や地域の子ども会、小学校との交流を再開し、「認知症キッズサポーター養成講座」を開催する等、管理者が中心となり認知症の啓発活動に取り組んでいる。ホームドクターと看護師、介護職員が連携し、24時間利用者の体調管理と安心の医療体制に取り組み、看取り支援も行っている。利用者が楽しみにしている食事は、職員が交代で作る日々の美味しい手料理の他、毎月1日には赤飯、誕生日には本人の食べたい物や豪華な手作りの行事食を提供し、利用者には大変喜ばれている。職場環境は、風通しが良く働きやすい雰囲気職員が定着し、「自分の親もここで看たい…そう思える介護」を目指し、管理者を中心にチームで取り組んでいる、グループホーム「あざみ苑」である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	TEL	093-582-0294
訪問調査日	令和06年05月16日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に作った理念は今でも大切にしており、理念に沿って実践している。	開設時に職員全員で話し合って作成した7つの項目の理念を見やすい場所に掲示し、常に目にすることで職員一人ひとりが理念の意義や目的を理解している。新人職員にはオリエンテーションで理念を説明し、「自分の親もここで看たい」そう思えるグループホームを目指し、日々努力している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	近隣との交流は日常的に行っており、職員の顔を見ただけで「あ、あざみ苑さん」と声をかけてくださる。利用者との散歩の際も地域の方からご挨拶してくれ利用者として世間話して下さる。	新型コロナ5類移行に伴い保育園、小・中学校、子ども会との交流や認知症キッズサポーター養成講座を再開を検討する等、認知症の啓発活動に取り組んでいる。日頃から地域の一員として信頼関係を築いているので、コロナ禍の中でも地域の方から多くの気遣いや励ましを受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との密な交流はコロナ禍以降減ってしまったが地域の保育園との年間行事や小学校への出張講座は以前の様に復活したいと望んでいる		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	何度か感染症に悩まされた経験から外部の人を招く運営推進会議はどうしても踏み切れずに躊躇してしまっている。	定期的にホームの状況や活動の報告を行う事や、コロナ状況を判断しながら会議の中で得られた意見や情報をサービスの向上に活かしていく事が重要である事を認識し、参加委員を募り、定期的な運営推進会議の開催を検討している。	利用者や家族、民生委員、地域代表、地域包括支援センター職員等の参加を要請し、ホームの運営や取り組みを伝え、情報交換しながら、地域貢献に繋がる会議の開催(年6回)を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給者を数名受け入れており、保護課の担当者とは密に連絡を取り合ってお互いに協力関係が築けている	管理者は、行政窓口空き状況や事故等の報告を行い、疑問点や困難事例を相談する等、情報交換しながら連携を図っている。行政主催の研修や行事が新型コロナ5類移行に伴い、再開されている。また、生活保護課とは密に連携を図り、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を定期的開催し議事録の回覧等で全職員が内容を把握できている。また、日々身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、資料を作成して職員に回覧し、周知している。日々の申し送りや業務の中でその都度、気づいた事や心配な事を職員間で話し合い、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会の設置と必要な体制の整備を行い虐待防止に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用していた利用者が過去に居たので職員は制度を把握しており必要があれば活用できる様にしている	日常生活支援事業や成年後見制度について、資料やパンフレットを用意し、利用者や家族から相談があれば、制度の内容や申請方法などを説明し、利用者の権利や財産が不利益を被らないように支援している。以前、制度を活用していた利用者がいたので、後見人とのやり取りを通して、制度についての理解を深めることが出来ている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は直接口頭で十分な説明をしたうえで、疑問点や不安に感じていることを聞き安心してサービスを利用してもらえる様に心掛けている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の要望はしっかり聞いたうえで柔軟に対応している。家族の要望や意見は面会の際等に聞いて運営に反映させている	職員はホームの中で、利用者が話しやすい雰囲気作りに取り組み、その言葉や表情から意見や要望の把握に努めている。家族面会や電話等で、家族の意見や要望、心配事等を聴き取り、ホーム運営や日常介護に反映させている。「あざみだより」を毎月送付し、家族の安心に繋げている。ケアプランの郵送の際、家族の要望欄に記入し返送してもらうようお願いしている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の要望や意見をしっかり聞き入れ速やかに改善している	職員が集まって会議を開催することは控えていたが、新型コロナウイルス類移行に伴い、コロナ状況を判断しながら職員間で情報を共有し、利用者一人ひとりに合わせた介護サービスに取り組んでいる。管理者は、職員から出された意見や要望、心配事等に速やかに対応し、ホーム運営や業務に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の体力や能力、家庭環境に応じてそれぞれが働きやすい環境作りに努めている		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に当たってはやる気と適正を重視しており年齢や性別で不採用にはしない。働いている職員に対しても個々の能力を見分けて役割分担を決めている	職員の募集は、年齢や性別、資格等の制限はなく、人柄を優先し、採用後は研修や現場での実践に取り組み、介護の知識と技術の習得を目指している。職員を大切に管理職の考えの下、子育て中の職員への配慮等、職員一人ひとりの事情を汲んだ勤務体制を整え、働きやすい環境の中で職員は定着している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者に対する人権や尊厳は常日頃から尊重するように指導している	コロナ禍の中で外部研修受講の機会は少なくなったが、利用者の人権を尊重する介護サービスについて申し送りや業務の中でその都度話し合い、確認している。特に、言葉遣いや対応に注意し、利用者がホームの中で安心して暮らせる支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍以降、外部研修の機会は減ってしまったが内部研修の確保やスキルアップのための勉強の機会は妨げないようにしている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が同業者と連絡を取り合う機会がある為、その際にお互いの近況を伝え合い良い点は自施設にも取り入れたりしている		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際は皆さん不安な気持ちが大きいため、いつでも要望や疑問を聞ける体制を整えている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の際に詳細を説明し、不安や疑問だけでなく不満もあつたら教えてくださいと伝えている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者が必要とする支援を職員は見極めており、その都度対応している		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に来る事はどんどんして頂き、本人も役割として受け取っているので支え合って生活していると感じていると思う		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にしか出来ない事があると伝え、共に本人を支えられるよう協力していただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は面会の制限があるが手紙や電話でのやり取りでなじみの関係が途切れない支援に努めている	職員は利用者の馴染みの関係を把握し、行きつけの理・美容院への同行や、家族の協力を得て病院受診等、利用者の馴染みの関係継続に取り組んでいる。LINEや電話、手紙等の取り次ぎを行い、ホーム入居で利用者が、これまで築いてきた馴染みの関係が途切れないように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士和気あいあいと過ごされていて微笑ましい場面をよく見かける		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族に季節の手紙を出したりと関係が途切れない様になっている。退居後何年も経つのにいまだに大切に思っていて下さっている御家族もいる		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを伝えられない利用者の意向も職員がきちんとくみ取れていると思う。ここでの暮らしは基本利用者本位と全員が理解している	ホームでの日常会話から、職員は利用者の思いや意向を把握し、職員間で情報を共有して、出来るだけ本人本位の生活が送れるように支援している。意志を伝えることが難しい利用者には、家族に相談したり、職員間で話し合い、職員が利用者寄り添い話しかけ、利用者の表情や仕草を観察しながら、思いに近づく努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報は職員全員が把握するようしており、入居後の情報も共有するよう努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者に合わせて生活リズムを職員が理解しており個々の体調に合わせて日常を過ごしていただいている		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は複数の職員で話し合い、あまり決まりごとにこだわらずに作成している。本人の状況が変われば即座に話し合いの場を作り柔軟に対応している	ケアマネジャーを中心に、利用者や家族とコミュニケーションを取りながら意見や要望を聴き取り、カンファレンスで職員の意見を聴き取り、利用者本位の介護計画を3ヶ月毎に作成している。利用者の状態や変化に合わせて家族や主治医と話し合い、現状に即した介護計画をその都度作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の様子や変化等は介護記録に記入し、職員間で情報を共有したうえで介護計画の見直しを行っている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身寄りのない利用者を施設長が身元引受人になり入居に繋がったり本人の状況に応じて出来る限り柔軟な支援をしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が利用できる地域資源は有効に活用するように努めている		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に二回の内科の訪問診療と週1回の歯科の訪問診療を受けて頂き、それ以外にも必要に応じて他科受診が出来るように支援している	入居時に、利用者や家族の希望を聞いて主治医を決定し、現在全員がホーム協力医の月2回の訪問診療を受けている。必要に応じて他科受診(精神科、整形外科等)も行い、訪問歯科、訪問眼科も取り入れ、利用者一人ひとりに応じた適切な医療が受けられるように支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問診療の他週1回の訪問看護もあるのでかかりつけの医療機関とは密に情報のやり取りが出来ている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には早めの退院をお願いしている。近隣の病院関係者とはなじみの関係作りが出来ているので入居の相談にも応じている		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に看取りの話をさせて頂いており、ここで出来る事と出来ない事を説明している。その後実際に看取りの時期を迎えた時は再度じっくり話し合い家族の意向を最優先に対応している	契約時に、ターミナルケアについて利用者や家族に説明し承諾を得ている。利用者の重度化が進むと、家族や主治医、看護師と密に連絡を取りながら今後の方針を確認し、職員間で方針を共有し、利用者がホームの中で安心して最期まで過ごせるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は慌てない様指導しており事故発生時の対応マニュアルも備えている		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定避難訓練を年2回以上行っており地域住民も参加、協力してもらっている	近隣の事業所の協力を得て、夜間想定避難訓練を年2回実施している。通報装置や消火器の使い方、避難経路、非常口、避難場所の確認を行い、利用者全員が安全に避難出来るように取り組んでいる。また、災害時に備え、非常食や保存期間の長い飲料水、カセットコンロを準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の立場に立った言葉かけをするよう指導している	利用者ひとり一人のプライバシーを守る介護サービスについて、職員間で常に話し合っている。入浴や排泄の場面では特に言葉遣いや対応に注意し、利用者のプライドや羞恥心に配慮している。また、利用者の個人情報取り扱いや職員の守秘義務についても管理者から説明し、情報漏洩防止の徹底に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に「どうしたい？」と問いかけたり、やりたいことがあるか尋ねる場面はよく見かける。職員が上手に誘導して自己決定出来ていると思う		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日が利用者本位の生活が出来ていると思う		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみや服選びはいつになっても大切にしたいと職員が理解しているのでお手伝いしながらこざれいにしてもらっている		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は食べるのが楽しみだと職員が理解しており外でしか食べれないようなハンバーガーや本格的なラーメンなどを手作りして提供している。食後の片づけも利用者と共にしている	「食」を楽しむことを大切にして、重度化の利用者のミキサー食やソフト食でも目で見て楽しめるよう細かなところまで配慮している。利用者の食べたい料理を聴き取り、ユニット毎に献立を考え、美味しい料理を、利用者と職員と一緒に食べる家庭的な食事の時間である。毎月1日の赤飯、誕生日、季節の行事食等、手の込んだ豪華な食事は利用者の大きな楽しみとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の変動や食事量の変化をしっかりと見極めて提供する量を増減したり、嚥下の状態に応じて食事形態を変えたりと柔軟に対応している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは毎食後行っており、週1回の歯科往診時にもケアの仕方を指導してもらっている		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを職員が理解しており時間ごとのトイレ誘導や、利用者が出すサインを見逃すことなく失禁を減らす工夫をしている	利用者が重度化してもトイレで排泄を基本とし、職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握し、早めの声掛けや誘導を行い、利用者の負担をなるべく減らせるように支援している。また、夜間は睡眠を重視しながらセンサーを設置して誘導する等、利用者一人ひとりの希望や体調に配慮した支援に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の水分摂取量は全職員が記録し把握できている。食物繊維の多い食事の提供や適度な運動を心掛けている		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の状況に合わせた入浴を心掛けており楽しんで入浴していただいている	利用者の希望や体調に配慮して週2回は入浴できるように支援し、利用者の身体状況に合わせた方法で柔軟に対応している。香りの良い入浴剤を入れる等、入浴が楽しめるように工夫している。入浴は利用者と職員が一对一でゆっくり会話が出来る貴重な時間と捉え、職員は利用者とのコミュニケーションに努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者それぞれのペースで日々過ごしている。朝寝やお昼寝等ご自分のタイミングで休まれている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者の内服薬を頓用薬も含めすべて把握しており、変更があった際は申し送りノート等の活用により情報の共有が出来ている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌が好きな利用者や裁縫が得意な利用者など個々のレベルや状況に合わせて日々を楽しく過ごせるよう努めている		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の体調や天候、気候等に左右されるが出来るだけ気分転換できる様外出の支援をしている	新型コロナ5類移行に伴い、コロナ状況を判断しながら、弁当を作って花見やドライブ、近所のお店への買い物、家族と一緒に外出に出かける等、外出の支援に取り組んでいる。天気の良い日は、玄関先に出て花や景色を眺めることで、気分転換を図っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルを避けるために利用者自身がお金を管理する事はないが、職員の買い物に同行してもらい支払いの際お願いする事はある。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関してはタイミングを見て出来る限り希望に沿うように対応している。手紙に関してはひ孫とはがきのやり取りをしている方もいてその都度お手伝いしている		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度、匂いには特に気を配り利用者にとって心地よい空間づくりに努めている	ホーム内はバリアフリーを設置し、清掃と整理整頓に力を入れて取り組み、特に臭いには気をつけて、利用者が快適に過ごしやすい空間作りに取り組んでいる。季節の生花を飾り、利用者の似顔絵や笑顔の写真、小物を飾り、生活感や季節感を大切に温かみのある共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中でも利用者同士会話する時もあるし少し離れて同じ空間に居ることもあるしざわざわしたりリビングでお昼寝したいと言う方もいてそれぞれが思い思いに過ごしている		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に新たに買いなおさず出来るだけ使い慣れたものを持ち込むよう家族にお願いしている。モノが多すぎて混乱する利用者に関してはこちらでお預かりして居心地よい空間になる様努めている	利用者が使い慣れた馴染みの身の回りの物や仏壇、家族やペットの写真等、大切な物を家族の協力で持ち込んでもらい、生活環境が急変しないように配慮して、利用者が安心して過ごせるように工夫している。また、こまめに換気や掃除を行い、利用者が気持ちよく過ごせる居心地の良い居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわからなくなる利用者の為に廊下に矢印付きの誘導ポスターを何カ所も貼って一人でもトイレにたどり着ける様工夫している		